

生活を豊かにする？ペン入力

東京農工大学工学部 加藤直樹

社会の情報化

コンピュータの普及に伴って、生活上の様々な場面で、情報を記録・伝達するために、紙や黒板などを用いて行われてきたことに、コンピュータが利用されるようになってきている。ワードプロセッサは編集の容易さから文書作成にはなくてはならないものとなっている。電子メールも高速な配送を最大の特徴として、普及がすすんでいる。

しかし、コンピュータを使いこなせない人（これはキーボードやマウスを使いこなせない人も含まれる）は、コンピュータがもたらす恩恵を受けることが十分にできていない。それだけならまだよいが、コンピュータの利用が重要、さらに言えば必須となる社会作りが進められており、コンピュータを使えないことで、不利益を被る危険性が生じかねない。便利にするために導入されたコンピュータが、不利益や面倒さを生じさせるのでは本末転倒である。

そこでペン入力

ペン入力に関する研究の一つのテーマとして、コンピュータをいかにして紙や黒板などのように手軽に扱えるようにできるか、逆から言うと、紙や黒板をコンピュータによる電子化でいかに便利にするかということがある。

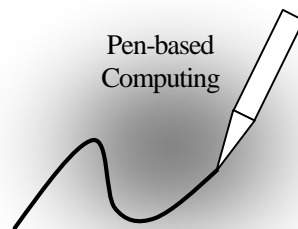
まさしく、先の問題点の分野に一致する。ペン入力を採用することで、従来の紙や黒板と同じような方法で、コンピュータに入力することができる。さらに、ペン入力による手書きは、多くの人々が幼少から行ってきた動作であり、十分に慣れているというメリットもある。

参考 web ページ：ペン入力資料館

<http://hands.ei.tuat.ac.jp/pen/>

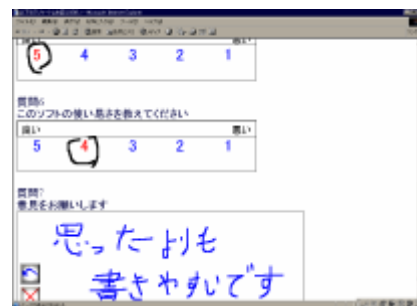
たとえばこんなところに

電子メールにペン入力を適用することで、キーボードを利用することなく、メッセージを作成できるようになる。たとえば、おじいちゃんやおばあちゃんとお孫さんとの間での電子メール交換などで便利であろう。また、より表現豊かなメッセージを書くことができる。電子申請にペン入力を適用すれば、やはり、キーボードを利用することなく、紙の申請書に書くように情報を書くことができる。在宅したまま申請できることで、もっとも恩恵を受けるとされる高齢者は、キーボードによる入力を不得意とすることが多いが、この問題点を解決することができる。



まとめ

紙や黒板などを用いる作業すべてにおいて、コンピュータを利用するだけでより便利になるとは言えないと思う。しかし、適所へのコンピュータ導入は、作業の効率化や多様なコミュニケーションなどを可能とする。そして、ペン入力を適用することで、少なくともより多くの人々がコンピュータを利用し、コンピュータの恩恵を受けることができるようになると思う。そのためには、ペンに向けた操作方法の研究や、ペンならではの利点を持ったアプリケーションの開発を進め、ペン入力をより一般的に広めていくことが重要な課題である。



web ブラウザから手書き回答を可能にしたアンケートシステム